

2022年難民・強制移動・無国籍関連文献一覧

【図書】

- 安藤由香里『ノン・ルフルマン原則と外国人の退去強制：マクリーン事件「特別の条約」の役割』信山社
内海成治＝桑名恵＝大西健丞編著『緊急人道支援の世紀：紛争・災害・危機への新たな対応』ナカニシヤ出版
大山均『特定技能・技能実習関係法令総覧：「出入国管理及び難民認定法」・「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」のための法令総覧』年友企画
加藤丈太郎『日本の「非正規移民」：「不法性」はいかにつくられ、維持されるか』明石書店
工藤晴子『難民とセクシュアリティ：アメリカにおける性的マイノリティの包摂と排除』明石書店
小泉康一『彷徨するグローバル難民政策：「人道主義」の政治と倫理』日本評論社
鈴木江理子＝児玉晃一編著『入管問題とは何か：終わらない<密室の人権侵害>』明石書店
陳天璽『無国籍と複数国籍：あなたは「ナニジン」ですか?』光文社
戸田五郎『国際人権法・庇護法研究』信山社
広渡清吾＝大西楠テア編著『移動と帰属の法理論－変容するアイデンティティ－』岩波書店
南山淳＝前田幸男編著『批判的安全保障論：アプローチとイシューを理解する』柄谷利恵子「第10章 グローバルな移民／難民問題と安全保障－移民／難民の境界線の確定と名付け」、北川真也「第11章批判地政学と安全保障－地政学をローカルに考えて見えてくる世界の複雑さ」法律文化社
山脇康嗣『詳説 入管法と外国人労務管理・監査の実務：入管・労働法令、内部審査基準、実務運用、裁判例』新日本法規出版

【論文】

- 安藤由香里「難民条約上のノン・ルフルマン原則に関する一考察」『芦屋大学論叢』76号、1～13頁
井上岳彦＝斎藤祥平「あるロシア系収容者のミュンヘン難民キャンプ：米ソ対立のはじまりと『置き場のない人々』」『境界研究』12巻、55～76頁
指宿昭一「難民申請者の強制送還に違憲判決：スリランカ人一斉強制送還事件国家賠償請求弁護団[2021.9.22東京高等裁判所]」『NIBEN Frontier』212号、42～45頁
今井宏平「選挙の争点として顕在化したシリア難民問題－トルコ人の間で燃える不満」『IDEスクエア』1～7頁
今野元「ドイツ難民運動の論拠としての欧州アイデンティティ：ヘルベルト・チャヤとその後継世代を中心に」『ゲシヒテ』15号、19～36頁
宇野原将貴「欧州難民危機におけるガバナンスの破綻：ガバナンスの失敗とレジリエンス」『国際文化学』35号、51～71頁
浦上法久「政策形成・履行における規範と合理的選択の相克－ルワンダ難民救援への自衛隊派遣政策過程－」『防衛大学校紀要 社会科学分冊』第124輯、127～149頁
円城由美子「イラクにおける国内避難民の移動と避難状況－なぜ戻れないのか－」『大阪女学院大学紀要』18号、171～186頁
荻野剛史「滞日インドシナ難民による社会貢献活動」『東洋大学社会学部紀要』60巻1号、5～16頁
長有紀枝「さらなる難民危機と国際社会」『国際問題』709号、37～49頁
長有紀枝「日本から『難民』支援を考える」『生活協同組合研究』561巻、30～39頁
小野塚佳光「移民・難民政策と国際システム：出入国管理体制批判」『経済学論叢』73巻4号、637～667頁
小畑郁「越境移動の時代における国籍と人間：無国籍者・『難民』の取扱いを中心に」『法学教室』498号、18～23頁
小尾尚子「コロナ禍における難民の保護と支援：難民を取り巻く世界の現状」『人道研究ジャーナル』11巻、124～135頁
金児真依「『父母がともに知れない子』(foundling)の無国籍の防止：1961年無国籍削減条約第2条を子どもの権利条約第7条の観点から解釈する」『国際人権』33号、95～99頁
可部州彦「SDGsと難民雇用に対する現場社員のアティテュード（態度・気持ち）」『明治学院大学教養教育センター紀要：カルチュラル』16巻1号、59～66頁
柄谷利恵子「『難民』保護への挑戦：第三国定住受入れを英国の事例から問う」「帝国」的实践研究班『続・戦争と統治のあいだ』関西大学法学研究所、285～309頁
河村有教「日本の『出入国管理及び難民認定法』は国際規範に違反するか－収容令書及び退去強制令書発付後の難民認定申請中の『避難国に不法にいる難民』の収容手続についての法改正に向けて－」『多文化社会研究』8巻、63～91頁
川村真理「子どもの最善の利益とノン・ルフルマン原則－A.B.対フィンランド事件」『国際人権』33号、114～116頁
北岡志織「なぜ難民が舞台に立つのか：『表象不可能性』をめぐる議論からの一考察」『言語文化研究』48巻、59～76頁
北岡志織「現代ドイツ演劇界と右派の対立に関する一考察－難民問題を起点とする－」『ヨーロッパ超越研究』3巻、11～22頁
北村泰三「難民不認定処分と裁判を受ける権利（名古屋高判令和3・1・13）」『令和3年度重要判例解説』250～251頁

- 北村泰三＝安藤由香里＝佐々木亮「国際法委員会『外国人の追放に関する条文草案』の研究(2)」『比較法雑誌』55巻4号、69～104頁
- 北村泰三＝安藤由香里＝佐々木亮「国際法委員会『外国人の追放に関する条文草案』の研究(3・完)」『比較法雑誌』56巻1号、27～60頁
- 工藤晴子「難民・避難民の移動と支援におけるジェンダーに基づく暴力」『トラウマティック・ストレス』20巻1号、53～58頁
- 近田亮平「サンパウロにおける外国人の犯罪被害と安全への取り組み」『ラテンアメリカレポート』39巻1号、60～75頁
- 近藤敦「難民申請者の裁判を受ける権利と適正手続」『法律時報』94巻6号、68～73頁
- 近藤敦「入管法と憲法：2021年入管法等改正案とマクリーン判決の問題点」『エトランデュテ』4号、71～102頁
- 佐藤麻理絵「滞日ムスリムのネットワークとトルコを拠点とするシリア人NGOの連携：大塚モスク・JITを起点とするシリア難民支援」『移民政策研究』14巻、92～107頁
- 嶋田晴行「カナダのアフガニスタン移民・「難民」の現実：カナダにおける聞き取り調査結果から」『立命館国際研究』35巻1号、35～51頁
- 下澤嶽「東パキスタン、カブタイダム建設と開発難民の60年」『愛知大学国際問題研究所紀要』159号、77～106頁
- 申恵丰「難民該当性について司法審査を受ける権利」『青山法学論集』63巻4号、257～295頁
- 須崎成二「セクシュアルマイノリティの受入をめぐる日本の二重規範－『地理的スケール概念』からみた難民認定・在留許可－」『駿台史學』176号、55～74頁
- 鈴木江理子「外国人政策・難民政策における『送還忌避者』－2021年改定入管法案は何か問題であるか－」『多文化共生研究年報』19号、1～8頁
- 瀬戸徐映奈「〈研究ノート〉「難民化」経験の多様性－在日ベトナム難民の出国背景に着目して」『近畿大学人権問題研究所紀要』36号、87～108頁
- 曾我部真裕「マクリーン事件判決およびそれに関する最近の議論について」『国際人権』33号、13～18頁
- 高佐智美「国籍法の日本国正規剥奪条項の合憲性」『国際人権』33号、101～103頁
- 田口雅弘＝金子泰「ポーランド・ウクライナ関係とポーランドのウクライナ難民受け入れの現状」『ロシア・ユーラシアの社会』1064号、55～85頁
- 竹沢昌子「ユダヤ系アメリカ人ソーシャルワーカーローラ・マーゴリス(Laura Margolis)のユダヤ難民の救済活動と現代ソーシャルワークへの示唆」『上智社会福祉専門学校紀要』17号、71～94頁
- 立松美也子「条約3条、13条および6条の違反を条約締約国域外から問えるか：M.N.他対ベルギー決定：M.N. and others v. Belgium, Decision, 5 March 2020 (大法廷)：入国管理(ビザ発給の拒否)に関する条約の域外適用の否定」『人権判例報』4号、105～111頁
- 樽本英樹「『ヨーロッパ難民危機』はなぜ危機だったのか：社会的境界研究の視角から」『社会学年誌』63号、131～145頁
- 陳天璽「在日華僑華人3世代のオートエスノグラフィ 横浜中華街で生まれ育った『私』のhomenessとhomelessness」『文化人類学』87巻2号、224～242頁
- 塚本栄美子「19世紀後半ベルリンにおけるユグノーたちの『オフィシャルな』歴史叙述：ミュレ『ブランデンブルク＝プロイセンにおけるフランス人入植地の歴史』(1885年)」『歴史学部論集』12号、107～126頁
- 渡名喜庸哲「アーレント・難民・収容所(2)」『境界を越えて：比較文明学の現在』22巻、47～64頁
- 伴野崇生「『難民日本語教育』実践者の自己形成と成長－オートエスノグラフィとAuto-TEMを通じて－」『社会情報研究』3巻2号、1～15頁
- 中西萌「<研究創案ノート>レバノン・シリア系移民の歴史的系譜の中の現代シリア難民－新たな分析枠組みの構築に向けて－」『イスラーム世界研究』15巻、240～253頁
- 成地草太「1864年オスマン帝国におけるイギリスのチェルケス人難民支援」『明大アジア史論集』26号、1～29頁
- 西土彰一郎「庇護権申請者受け入れ施設に対する取材の自由：ジャーナリストによる庇護権申請者受け入れ施設の取材と庇護権申請者の保護－スロヴェツ対ハンガリー判決－」『人権判例報』4号、75～81頁
- 貫名隆洋「ベトナム人の定住化と『長田』の変容：マルチスケールの観点から」『空間・社会・地理思想』25巻、17～43頁
- バーバラ・ドリング/岸・ツグラッゲン・エヴェリン訳「紛争地域の難民に対する教育とドイツ社会への統合」『東洋学術研究』61巻2号、212～235頁
- 橋本茉莉「『本物の男』と『複写男』のあいだで：南スーダン紛争後社会における痕跡とハイブリッドな『男らしさ』」『史苑』82巻1号、79～106頁
- 長谷川貴陽史「わが国の移民・難民の包摂に向けた動向：難民関係訴訟及び入管法改正案にみる包摂への試み」『立教法学』105巻、172～189頁
- 長谷部美佳「恒久的な難民政策につながらなかったインドシナ難民対策－ポート・ピープルへの対応を中心に」『PRIME』45巻、95～103頁

- 長谷部美佳「多文化共生の源流としてのインドシナ難民支援」『明治学院大学教養教育センター紀要：カルチュラル』16巻、95～104頁
- 林貴哉＝宮原暁「マイナー文学としての『ベトナム難民少女の十年』」『アジア太平洋論叢』24巻1号、185～206頁
- 東大作「モルドバにおけるウクライナ難民調査と日本のPTSD支援の可能性」『トラウマティック・ストレス』20巻2号、127～135頁
- 東村紀子「欧州における移民・難民統合モデルの蹉跎：EUの理念はシェンゲン加盟国の国益を超えられるか」『Ignis』2巻、75～102頁
- 人見泰弘「2021年軍事クーデター直後の滞日ビルマ人の政治的トランスナショナリズムの諸相－社会イノベーションの視点を手掛かりに」『成城大学社会イノベーション研究』17巻2号、11～20頁
- 檜山怜美「外国人への退去の『強制』がもたらした現状－個人の権利と尊厳を守る先にあるもの」『移民政策研究』14号、117～188頁
- 片雪蘭「難民の移動、わたしの移動：去る者と残される者のはざままで」『関西学院大学先端社会研究所紀要』19号、51～59頁
- 堀田真吾「ウクライナ避難民受け入れ－今後の日本の難民政策にもたらされる機会と課題は何か－」『IPSS Working Paper Series』63号、1～17頁
- 村橋勲「ウガンダの難民居住地における南スーダン人の食習慣－食材と嗜好の変化－」『農耕の技術と文化』30巻、133～158頁
- 望月葵「シリア難民の生成と『異邦』における再定住－祖国喪失後の生存基盤と帰属をめぐる中東と欧州の事例－」（博士論文）
- 森恭子「外国人住民への包括的支援体制づくりを担うコミュニティ・ソーシャルワーク実践と地域の拠点のあり方について」『人間科学研究』43巻、91～106頁
- 山本響子「『永住的でない』外国人の生活保護受給権－1980年代および1990年代のドイツを素材とした検討－」『早稲田法學』97巻4号、77～123頁
- 山本清治＝甘利琢磨＝井口知也「シリア難民障害者の社会参加とエンパワメント促進を目的とした障害者リーダー育成の課題」『作業療法ジャーナル』56巻1号、88～91頁
- 湯田ミノリ「ミャンマー難民のアメリカ合衆国への第三国定住：サンディエゴのカレン難民を例に」『駒澤地理』58号、75～94頁
- 吉満たか子「コロナ禍におけるドイツの移民・難民のための統合コース」『広島外国語教育研究』25号、199～210頁